

平成28年度 学校版環境ISOへの取組 概要報告

宇土市立鶴城中学校

1 宣言：昨年度の取組から今年度の課題を明確にする。

生徒宣言項目

- ① 照明をこまめに消し、節電に努め、昨年度の電気使用量を下回ります。
- ② 節水に努め、昨年度の水道使用量を下回ります。
 - ★清掃は、バケツ一杯の水で行います。
 - ★歯磨き時に水を出しっぱなしにしません。
 - ★掃除時のホースの使用は最小限にとどめます。
- ③ 給食をしっかり食べて、食べ残しをゼロにします。
- ④ 物を大切に使い、無駄づかいをなくします。
 - ★教室を空けるときには、私物を整理し、机の上には何も置きません。
 - ★掃除用具を大切に使用し、破損や紛失に注意し、他場所からの無断借用はしません。
 - ★ごみは、各階ごとに集め、学校全体でまとめて出します。
 - ★トイレトペーパーを大切に扱います。
- ⑤ ペットボトルのキャップを2万個以上集めます。

年々電気料金・水道料金が上がっているため、本年度はさらにグラフ化し継続して実践することとした。

昨年度に引き続き、給食委員会を中心に、残さいチェックを毎日行い、前年度よりも残さいを減らす取組を続けた。

毎月、美化委員会で掃除用具の数量や破損の点検を行い、表に記入していく実践を行った。

職員宣言項目

- ① 環境関係の掲示コーナーを設け、環境に対する意識の向上を図ります。
- ② 紙の消費量を減らすために可能な限り、不要プリントの再利用を行います。
- ③ 職員室等の整理整頓を行い、備品・消耗品の保管・保全・管理に努めます。
- ④ 備品、消耗品の計画的購入を行い、無駄をなくします。
- ⑤ OA機器のスイッチ、照明をこまめに消し、節電に努めます。
- ⑥ 冷暖房についての使用基準を設け、省エネに努めます。
- ⑦ 歯磨きは、コップ一杯の水で行います。
- ⑧ 部活動終了時刻1時間以内には退勤し、節電に努めます。
- ⑨ 個人的な空き缶、ペットボトル、弁当がら類は、個人で持ち帰ります。
- ⑩ 可能な限り、徒歩、自転車、公共交通機関の利用に努めます。

本年度も全職員で、無理なく無駄なく継続できる取組を実践することとした。

2 行動：無言清掃を鶴城中 ISO の基本姿勢として全校生徒と全職員での共通実践をめざす。

無言清掃

「自分達の学ぶ場に、感謝し心を込めて掃除する。」

「定刻に始め、責任を持って時間いっぱい掃除する。」

「道具の整理整頓や環境整備をきちんとし、協力して掃除をする。」を目標に無言清掃の徹底に取り組んだ。

昨年は、スタート時にばらつきが見られたので、今年は、生徒会が中心になり、無言清掃の前に「黙想」を実践した。掃除場所に着いてチャイムと同時に黙想を行い、心を落ち着かせ、一斉に掃除へ取り組むようになり、掃除に対する姿勢と質を高めてきている。また、身の回りの環境、公共物を大事にすることがISOの基本姿勢と考える。



電気・水道使用量削減

環境 ISO 委員会を中心に、校内放送を利用して節電や節水を呼びかけ、生徒や職員の意識向上へつなげている。今年度は、震災の影響で避難所になり、電気や水道の使用が増加したこともあり、昨年度との比較はできていない。

書写の筆洗いを水道の流し水ではなく、ペットボトルに入れた少量の水に変えたり、教科の中でも使用量削減に努めた。

食べ残し0の取組



今年度も職員の共通理解を図り、担任の協力を得て、給食委員会による残さいチェックや食器の後片付けをクラスマッチ形式で取り組んで、毎月表彰を行った。

給食の取組は、残さいをなくすことだけでなく、食器の高さを揃え整理整頓すること、食べた後のパンの袋や牛乳パック、副食の容器等のゴミの縮小化に努めている。



校内ゴミ減量化



ゴミの回収は、各階ごとの回収当番がその階の全クラスを回り、収集場所へ持ってくる。それをまた、ひとつの袋にまとめゴミ袋いっぱいになってからごみ置き場に出すことを心がけている。ゴミ袋がいっぱいになっていない場合は、翌日に持ち越し、常にいっぱいにして出し直しをしている。職員室で出る一番のゴミは紙類であるが、裏紙として使えるものは活用し、使用できない用紙は、シュレッダーにかけて資源ゴミとしてゴミ収集に出してリサイクルに努めている。

正門前の落ち葉集め

美化委員会、各部活動による正門前の通学路や校内の清掃活動の実施。美化委員会では、葉が落ちる時期の2ヶ月間交代で落ち葉集めを行った。また、部活動でも週1回ボランティアで正門の掃除やグラウンドの落ち葉の清掃活動を朝から行っている。その集めた枯葉は、近隣の方が畑の肥料にすることで、喜んで持って行って頂き、リサイクルの視点、ボランティアの視点からも生徒たちへの意識を高める活動となっている。

また、校内でも花壇や畑、プランターなどに混ぜ込み、堆肥として利用している。





ペットボトルキャップの回収

奉仕委員会によるペットボトルキャップの回収を数年前から行っている。各クラスに回収箱を準備し、毎月の委員会の時に個数を確認している。一時期減少していたが、奉仕委員会の呼びかけでここ数年、生徒や職員の意識が高まったこともあり個数も増えてきている。毎年1年間の目標個数を提示して行っているが、達する見込みである。

一歩前の会（PTA）と連携し、生徒会・部活動が中心となり地域の祭りの翌日、宇土市内の清掃活動を行っている。数年前から、祭り翌日に部活動に来た生徒たちが、通学路に落ちていたゴミを自主的に拾ったことがきっかけで、今年はPTAと連携し、車が通り始める前の早い時間帯に部活動ごとに拾って歩いた。毎年その光景があり、近年では地域の方も一緒になって清掃活動に取り組んで下さる。生徒達は、植え込みの中、わき道など隅々まで見て回り、積極的にゴミを拾う姿があった。また、なぜ道ばたにゴミを捨てるのかと身勝手な行動にも気づくことができた。この経験を生かしてゴミに対する意識を高める活動となった。

通学路の清掃活動



船場川清掃活動



地域の清掃活動にたくさんの部活動の生徒がボランティアで地域の川の清掃活動に参加をしている。本校からは、毎年約200名近くの生徒が参加しており、宇土市の地域活動との連携を行っている。部活動が始まる前の1時間を利用して、船場川の周辺の草とり、ゴミ集め、落ち葉拾いや川を浄化するホウ酸団子（市で準備）をまいたりしている。熱心な生徒が多く、川岸の石垣によじ登り草を必死に取っている生徒や川に浮かんでいるゴミをどうにかして取ろうとする生徒などが見られ、地域の自然環境に関心を持ち、進んで関わろうとする態度がみられた。

3 点検・記録

代議委員会が交代で、無言清掃しているか全部の掃除場所を毎日見回って点検し、結果を目に付く廊下に掲示して意識の向上化を図っている。

クラスに割り当てられた掃除場所全部が一月全て無言清掃できていれば、表彰を行っている。

保健委員会では、トイレトーパー、石鹸などの管理を行いつつどのトイレが使用率が多いかチェックしている。無駄遣いがないように、予備のトイレトーパーの個数も決めている。

環境ISO委員会では、給食時の黒板の電気が消えているか、チェックをして回り、放送を利用して呼びかけている。



4 見直し (成果と課題)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ○ 無言清掃を環境 ISO の基盤において、生徒会執行部を中心に美化委員会・環境 ISO 委員会だけではなく、各委員会と連携して取組できた。その為、自分たちの委員会でできる活動はないかと意見を出し合う委員会が増えてきた。 ○ 食べ残し0の取組やペットボトルのキャップ集め、節電や無言清掃チェックなどの取組をみんなで行ったことで、ISO の意識向上も高まった。さらに共通実践することで学級や学年、生徒全体のつながりが深まった。 ○ 委員会活動だけではなく、部活動単位での取組も増えてきて、環境 ISO の取組が広まってきた。練習の変わりに週1回清掃活動を行う部活動、休日の練習前に自分達が使うところだけでなく、校内・校外を掃除して活動に入る部が増え、主体的な実践力も育ちつつある。 ○ 職員室内では、ゴミ箱に紙を捨てない意識が広がりつつあり、大幅にゴミの量が削減された。また、事務用品も詰替を進んで使用するようになるなど、職員のエコ意識も高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒数が多いこともあり、一部の生徒しか活動しないことも多々あり、今後は、学校全体で活動できるように考えていきたい。 ● 様々な活動を経験する中で、生徒の意欲低下や活動の形骸化していくので、工夫を重ねながら継続していきたい。 ● 地域活動では、積極的に活動している反面、その時だけの活動になっていて、学校生活に生かされていないのが現状である。個人でも環境について考え実践できるようにしていきたい。 ● 空き教室・空きスペースがなくペットボトルキャップやリサイクルゴミの保管場所に困っている。リサイクルゴミは、積極的に地域の回収に出していくが、ペットボトルキャップの保管場所は検討していく必要がある。 ● ISO の取組で無駄な電気使用の削減を実行できているが、今後の努力点として、職員室内での終業後や休日の電気や冷暖房の使用などにも目を向ける必要がある。

